

送付5-18、19、21~26、31、41、45~49、52~56、参考送付、送付6-8、18、26、38、39、
送付7-5、6、7 陳情審査部分抜粋：令和 7年 3月25日 環境まちづくり委員会（未定稿）

○林委員長 次に、二番町地区のまちづくり関連についてです。本件に関する陳情は、新たに送付された陳情、送付7-5、二番町計画の附帯決議に基づく適切な「前向きな話し合いの場」をお願いする陳情、送付7-6、二番町地区再開発に係る陳情の取扱いに関する陳情、送付7-7、二番町地区再開発に関する話し合いの場に係る陳情及び継続中の送付5-18、19、21から26、31、41、45から49、52から56、参考送付、送付6-8、18、26、38、39の合計29件になりました。

新たに送付された陳情書の朗読は省略いたします。送付7-6は、二番町地区のまちづくり関連の陳情を一括審査ではなく、課題別の審査とすること。もう一点が、「はい」、「なし」、「継続」の発声主と、他の議員の賛否を確認して議事録へ掲載することというのが、陳情の趣旨です。

お諮りしていきますので、この7-6について、まず、これまでの当委員会では、多数の陳情を効率的に行うために、関連する陳情を一括して審査してきました。いいですね。個別にいろいろ行くよりも、よろしいですかね。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○林委員長 はい。ありがとうございます。

次に、千代田区議会の委員会では、委員長の議事整理権の下、委員の皆様にも都度都度で総意を確認しているため、発声主の氏名は記載しておりません。もし仮に異議がある場合には、異議を申し出て、採決により賛否を議事録に掲載しています。これは、議案審査とか本会議でも同じで、本会議でも簡易採決で議長がお諮りしますって、異議ない場合には、そのまま全会一致という形で行っているんで、この2点について、皆さんからご意見をと言われても、それ以上でも以下でもないのか、特に何かありますか。

○桜井委員 今までの委員長の仕切りでいいと思います。

○林委員長 まあ。うん。ちょっとこの二番町関連は29件、かなりボリュームが増えてきてしまったのも、積み残しもありましたし、私が引き継いでからのものもあるんですけど、なかなかちょっと難しい佳境もあったんですけど、一定の議案審査も経た形で、次は、附帯決議というのは都市計画審議会の中ですし、あくまでも、所管事務の調査として、進捗をチェックしていくのと陳情の取扱いをやっていくんです。じゃあ、ここは、都度都度で、異議なしというか、ここはいいですかね、これまでの慣例を、今私が申し上げた、総意の場合は「異議なし」と言って全員が賛成、継続の場合も「よろしいですか」とお諮りしたら、全員がそうだ。で、異議がある場合には、異議を出していただいて、名前を出していくと。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○林委員長 はい。ありがとうございます。

次が、取扱いについてなんです。冒頭でお諮りは一旦してしまいましたけれども、分割審査にする場合、委員の方がどうしてもここだけ分割してくれといった場合には、これは分割して審査したほうがよろしいかと思えますけれども、あくまでも、総意でみんなまとめてやったほうがいいですねといったときには、一括審査なのかなとは思いますが、従前どおりですかね。（発言する者あり）従前どおりというか、あんまりないんですね、一括審査って。

次が議事録の記載方法、これは何だ、さっきの名前のやつですよ。名前のやつは、じ

送付5-18、19、21~26、31、41、45~49、52~56、参考送付、送付6-8、18、26、38、39、
送付7-5、6、7 陳情審査部分抜粋：令和 7年 3月25日 環境まちづくり委員会（未定稿）

やあ、これで行きました。

それでは、従来どおり、一括審査といたします。いいですね。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○林委員長 はい。その上で、送付7-6、だから、7-6はこれでいいのか。7-6、もう一回、皆さんお目通しただいていいですか。7-16の陳情書、7-6です。新たにだから、こっちだ。新たにだから、最初で。何かここだけはお返しをしないと、（発言する者あり）何かお気づきの点あれば。

1点目が……

○春山副委員長 分割審査。

○林委員長 分割審査ですね。課題別になって。ここは、何度か試みてやりながらも、結局、一体としてで。議場から「はい」という委員の方に対して——まあ、なしという場合には、全員、出席の一番上のところの全員でという形で、いいですかね、取りまとめたの。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○林委員長 では、1番が——何かありますか。あればどうぞ。

○小枝委員 すみません。（1）のほうで、これまでの提出陳情は大きく三つに区分されるだろうと。住民同士の話し合い、または、行政や日テレからの説明を求めるものと、あとは、高さ、容積などの建築内容や風、交通量など、環境調査に関するものと、その他アンケート調査などということで、そうした陳情の区分というのは、1回されましたっけ。

○春山副委員長 1回やりました。

○林委員長 1回やっていますし。

○小枝委員 されたっけ。

○林委員長 すみません、発言の途中で。その都度、資料を出して、このテーマごとにとこののを、今回の本日の陳情審査も、1月、本年1月12日に開催された番町次世代シンポジウムという、このテーマに基づいて陳情審査をやっていくと。別に、これ、陳情がなかったら、恐らく報告事項になっているんだろうなとは思いますが、陳情審査の中で、テーマごとにやっていますし、委員の皆様は資料要求等ありましたらというのも言っておりますので、その都度、その資料に基づいたテーマごとに審査をかけているつもりです。ただ、大変申し訳ない。きれいな整理がなかなかできなかったものを引き継ぎながら、もっと膨らんでしまったような状態で、ここも、先ほどの陳情のときに申し上げましたが、区議会の任期は2年制ですので、もう任期最後の定例会となります。審査がもうこれで終わりというわけではないんですけども、定例会中に一定の結論を出す、陳情で出すというのは、これまでやってきたことですが、継続という判断になるんだとしたら、継続の判断ですが、ちょっといろいろ試みながら、全員一致でまとめられるところはまとめて、執行機関に申し入れるという形になってくると思いますし、採決というのは最後のあれではありますけど、会期末ですよ、任期末に、最後、採決するのかなと。任期中は、4年間の任期中は継続でできるんだとしたら継続で、あえて採決という形は普通は取らないのかなという気はするんですけども。

いいですかね、テーマ別のところは、小枝委員。

○小枝委員 分かりました。

○林委員長 じゃあ、7-6については、今ちょっとよろよろまとめていたのをご回答と

送付5-18、19、21~26、31、41、45~49、52~56、参考送付、送付6-8、18、26、38、39、
送付7-5、6、7 陳情審査部分抜粋：令和 7年 3月25日 環境まちづくり委員会（未定稿）

して、1については、執行機関からの資料提示を基に、テーマごとに議論しています。2番については、総意ですので、総意じゃない場合には個別に名前が出ますと。千代田区議会は、慣例としてやっていたという形の取りまとめで陳情者にお返ししてよろしいでしょうかね。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○林委員長 はい。そうしますと、ありがとうございます。では、これで、送付7の陳情審査を終了し、残り28本の二番町の――いっぱい書いてあるな、これ、全部読んだほうがいいですか。どこまで読んだ。あ、これ、読んだんだ。いいんだ。7-6以外の審査に入りますと。送付7-6以外。

執行機関から何か情報提供ありますかと聞いて、麴町地域まちづくり担当課長が資料について説明がありますんで、よろしく願いいたします。

○榊原麴町地域まちづくり担当課長 番町地区のまちづくりについて、番町次世代シンポジウムの結果報告をいたします。

まずは、環境まちづくり部資料4-1、ファイル番号でいうと、9番をご覧ください。

本件については、1月24日の本委員会で、概要についてご報告をいたしました。本日は、当日のご意見であったり、アンケートの結果について、詳しくご報告をいたします。

資料の上段、実施概要の欄は、前回の資料と同様の内容となっておりますので、ご説明については割愛をさせていただきます。

続いて、中段以降、まずは、プログラムのところについてです。これ以降の部分、前回お示しできなかった詳細なご意見、アイデア等をご報告させていただきます。

まず、シンポジウムの参加者募集と同時期に、当日参加が難しい方等を想定して、番町への思いや番町をもっとよくしていきたいといったアイデアを募ってありまして、提案のあったアイデアをシンポジウム当日に参加者の皆さんにも共有しました。そのアイデアの一覧が環境まちづくり部資料4-2、ファイル番号10番にまとめています。シンポジウムの参加者には、こうしたアイデアも頂いていますということをご認識いただいた上で、意見交換に臨んでいただきました。

こちらの環境まちづくり部資料4-2、1ページ目にあるとおり、アイデアは16名から延べ24件が寄せられております。各ご意見をこちらで項目ごとに整理した形で、資料をお作りいたしました。

続いて、プログラムに戻りますが、番町の未来について大事にしていること、願いを含めた各自の自己紹介を頂きまして、次に、加藤教授から本シンポジウムを開催する意義、意味等について説明を頂いております。

その後、本シンポジウムの主目的であるグループワークが行われまして、全体対話、そして、アイデアづくりワークショップでは、資料に記載のテーマについて、活発な意見交換及び発表が行われております。

この際の記録については、環境まちづくり部資料4-3、ファイル番号11にまとめてありまして、前者が1から3ページ、後者が4から6ページに詳細をまとめてございます。

プログラム最後に、まとめとして、各自にシンポジウムへ参加して最もよかったこと、新しく知ったことを考えていただき、希望者のご意見を全員で共有しております。この記録については、環境まちづくり部資料4-3、ファイル番号11の7から8ページにまと

めております。

シンポジウムが終了した後、参加いただいた皆様は無記名でのアンケートを依頼しております。結果、27名分の回答が集まりました。こちら、今回は、詳細について、ご報告をいたします。

環境まちづくり部資料4-4、ファイル番号でいうと、12番をご覧ください。

資料1枚目、こちらが実際のアンケートのフォーマットとなっております。2枚目以降は、回収したアンケートの集計結果をまとめました。

1ページ目では、参加者の年齢層と性別の結果について、お示ししております。

次に、3ページ目をご覧ください。今までの番町地区の説明会等の参加の有無について、お伺いしたところ、3割強の方から「知らなかった」、「参加したことはない」という回答を頂いております。初めてこうした場に足を運んでいただいた方が一定数いらっしゃったという結果になっております。

続いて、4ページをご覧ください。満足度を4段階で評価いただく設問の回答をまとめております。こちらについては、多くの方が「とても良かった」、「まあまあ良かった」のいずれかを選択しております。シンポジウムの趣旨や開催方法、プログラム等について、肯定的な受け止め方をさせていただいたものと認識しております。

なお、これ以降を含め、一部の問いには自由記載で回答いただいております。例えば、4ページ下段のQ3-2では、満足度の選択を行った理由を挙げていただいております。そちらについてもご参照ください。

資料の9ページ、ご覧ください。番町地区において、今回のような多様なメンバーと意見交換を行う場の必要性を4段階で評価いただく設問の回答をまとめております。こちら、おおむね8割強の方が「とてもそう思う」、「そう思う」といういずれかの回答を選んでいただいております。

改めてのご説明となりますが、グループワークの際のご意見や、事前に提案を頂いたアイデアの中には、日本テレビの計画において検討がなされるべきもの、また、番町エリア全体のまちづくりで検討すべきものがあったというふうに捉えております。

今後の方向性としては、前者に該当するご意見であったり、アイデアについては、学識経験者とも相談の上、今後、日本テレビへ求めていく与件整理の参考としてまいりたいと考えております。

なお、シンポジウムの記録については、既に日本テレビにも情報提供をいたしております。また、後者に該当するご意見、アイデアについては、次年度、番町エリアを対象に、区では、住宅市街地における街路空間の検討を行っていきたい旨をご報告しておりますが、その際の参考として生かしてまいりたいというふうに考えております。

資料最後に、環境まちづくり部資料4-5です。こちらについては、これまでも配付している検討のステップに関する資料を、現在の位置のみ時点更新したものとして、本日、お配りいたしました。

最後になりますが、本日ご報告したシンポジウム当日のご意見であったり、アンケートの回答は、明日開催を予定している都市計画審議会でもご報告の上、区のホームページでも公開したいと考えております。

こちらからのご説明は以上です。

○林委員長 はい。それでは、質疑に入ります。

○岩田委員 まず、このシンポジウムというのは、これは、この4-5に書いてある、何だ、矢印の二つ目というのが太い矢印、黄色い、前向きに話し合える場の検討・設置がこのシンポジウムということによろしいのでしょうか。

○榊原穂町地域まちづくり担当課長 これまで開催前からこちらの委員会でもご報告したとおり、この前向きに話し合える場として、シンポジウムを開催しております。

○岩田委員 その前向きに話し合える場、長いんで、シンポジウムとこれから言います。このシンポジウムは、学識経験者や関係住民との意見交換って、いつ何回ぐらいどこでやったんでしょ。

○榊原穂町地域まちづくり担当課長 学識経験者に関しては、アドバイザーとして入っていただく先生方を含め、すみません、詳細な回数までは申し上げられないんですけども、当日、実施に至るまで細かに意見交換をさせていただいております。関係住民も、ちょっと定義が一概には申し上げられないんですが、こういった形での実施がいいかということについては、参加の申込みを含め、いろいろなご意見いただいておりますので、そういった形も含めた上で、当日のやり方については検討してまいりました。

○岩田委員 回数が申し上げられませんかという、その理由を教えてください。

○榊原穂町地域まちづくり担当課長 直接お会いするだけでなく、メールでのやり取りを含め、頻りに意見交換をしていたということで、明確な回数については申し上げられないと申し上げました。

○岩田委員 分かりました。じゃあ、その意見交換って、何か場があるわけじゃなくて、メールとか、そういうものでも意見交換したということで、回数が分からないとおっしゃっているんですね。

○榊原穂町地域まちづくり担当課長 こちらについて、もちろん対面でも意見交換はしておりますので、メールとかだけで行ったということではございません。

○加島まちづくり担当部長 ちょっと誤解があるのかなと。シンポジウムは1回ですね、前向きの1回で。シンポジウムを前向きな場として、都市計画審議会の附帯決議で出たので、その都市計画審議会の委員の方にどういう形でやるべきかというのを、意見交換をメールだとか、直接お会いしに行って、お話を聞いたということなので、先ほど、岩田委員はシンポジウムを何回やったのかというようなところだったのかなと。

○岩田委員 ううん。

○加島まちづくり担当部長 そうじゃないですか。じゃあ……

○岩田委員 意見交換、意見交換。

○加島まちづくり担当部長 その意見交換というのは、別に教授と前向きな場をやるための、どんな形でやるかという意見交換をやったということですので、そこは、ちょっとそういったご理解いただけると、ありがたいなと思います。

○岩田委員 大丈夫です。正しく理解しています。意見交換が何回やったのかという話を今していただいです。

シンポジウムに関しては、1回だけしかやっていない。でも、これって、何だ、附帯決議を受けてやったやつですよ。まず、確認。

○榊原穂町地域まちづくり担当課長 はい。今、ご指摘いただいたとおり、附帯決議を踏

まえた上で、開催をしたものです。

○岩田委員 附帯決議は、日本テレビの二番町のことやっていたはずなのに、これ、番町への思いって、番町全体的話になっちゃっているんですけど、シンポジウムって、これ、附帯決議を受けてだったら、二番町のことを話すはずじゃないですかね、番町全体じゃなくて。

○榊原翹町地域まちづくり担当課長 はい。今回のシンポジウム、番町というふうに銘打って開催をしておりますが、先ほどのご報告の最後にも申し上げたとおり、ご意見の中で二番町に特化したもの、また、番町エリア全体についてのご意見といったことについては、整理ができるものと考えております。そのため、前者の考え方については、今後の与件整理に向けて、こちらとしては参考にしたいというふうに考えております。

○岩田委員 いや。まとめるほうが二番町だけを特化してとやったとしても、意見を出すほうは、あ、番町全体的ことなんだなと思って、そういう意見が出ると思うんですよ。実際に、何ですか、多くの方が満足したって。それは知らない人が情報を知らされたら、それは満足でしょうし、知らなかったという人が多かったというのに、たった16人しかいないんですよ。でも、それ、1回しかやらないでというのは、それはちょっとどうなんですかね。ここの附帯決議のところに、地区内の融和に向けて、事業者、関係住民、関係機関などと共に真摯な努力を重ねることと書いてあるのに、16人だけ集めて、たった1回だけで、これで真摯な努力を重ねることと言えるんですかね。

○林委員長 岩田委員、16人というのは。

○岩田委員 えっ。

○林委員長 16人というのはどこの……

○岩田委員 さっきのアンケートのところで16人。

○林委員長 アンケートが16人。ああ、参加者じゃなく。

○岩田委員 うん。

○春山副委員長 アンケートは27じゃない。

○林委員長 うん。参加者は28人と書いてあるんだけど。

○岩田委員 ごめんなさい、ごめんなさい。

○林委員長 はい。岩田委員。

○岩田委員 ごめんなさい。参加者はもうちょっといますよ、二十何人。でも、その二十何人、この二番町のこの問題で関係ある人って、どれぐらいいるんですか。それに対して、二十何人、それで、たった1回、これが真摯な態度なのかということ、ちょっといささか疑問だと思うんですよ。

○榊原翹町地域まちづくり担当課長 はい。ただいまのご質問のうち、番町との関わりということについては、アンケート集計の2枚目の下段に記載がございますので、そちらをご参照ください。また、今回、定員を設けて開催をしておりますが、そういった都合上、どうしても参加できない方、日程についても、その日はご都合が悪いといった方もいるかなという想定の下に、アイデア募集ですね、資料の二つ目でおつけをしておりますが、こういったものについてもお出しいただけるというような機会を設けた上で、当日、開催をしております。

○林委員長 はい。岩田委員、ちょっといいですか。時間もあれなんで。

春山副委員長、どうぞ。

○春山副委員長 関連で、岩田委員のおっしゃられている、続けていくこと、あと、番町のところと二番町のところと切り分けて、二番町の計画をきっちりと議論するべきじゃないかということだと思っんですけれども、その点について、今後の進め方について、お伺いさせていただきます。今後、二番町の計画について、引き続き、いろんな方の意見を聞いていくということについて、どのように進めていかれるお考えですか。

○榊原翹町地域まちづくり担当課長 はい。二番町の計画に関しては、明日、都市計画審議会も開催される予定ですので、そちらでも、今回と同様のご報告をしたいと思っております。その際のご意見も踏まえて、与件整理をどのタイミングで実施するかということについては、改めて考えていきたいというふうに思っています。

これまで、部長を含めて、答弁の中で、今の時点では、日本テレビの具体的な計画がないので、それを出していただいた上で、今後検討するためにも、一定のタイミングで、与件整理ワークから日テレに伝えたいというふうには考えているところでございます。そのタイミングは、明日の都計審も含めて、ご意見を頂いた上で図っていきたいというふうに考えております。

一方で、番町エリア全体についての検討ということについては、来年度以降、区のほうでも検討を行っていききたいというふうに考えておりますので、そういった検討の中で、今回のように、シンポジウムのようなご意見の聞き方ですとか、そういったことは、今回の経験も踏まえて検討してまいりたいと思っております。

○春山副委員長 この番町次世代シンポジウムが開催するに当たり、委員長も、何度も委員だけでも見に行けるなり、傍聴できる形によって、開かれた場という形になるんじゃないかという申入れがあって、区のほうも努力していただいたと思うんですけど、結果として、クローズの会になってしまったと。次回からは、ぜひ、今まで多分こういう形で多くの方の意見を聞くというスタイル自体が初めての試みだったとは理解しているんですけども、最初からもうとにかくオープンでやりましょうということに賛同していただくような形をできるだけ取っていただきたいというのが1点。

2点目が、二番町の日テレの計画に関しても、これからの番町全体のことにしてもなんですけれども、幅広い意見をどうやって聞くかということ而努力していただきたいと。このシンポジウムのところの年齢層のところ、偏りがやっぱり50代以上の方が半数、高齢者の方々の声を聞くということももちろん大事ですけども、10代、20代のところが少なかったり、50代が少なかったり、もしかしたら子育て世代にとって行きにくい日だったのかもしれないとか、いろんな要因が考えられる。やっぱり複数回、いろんなパターンで重ねていくことで、幅広い意見が聞けると思うので、その辺は、ぜひ配慮いただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

○榊原翹町地域まちづくり担当課長 はい。今回のシンポジウムに関しては、議員の方を含めて、傍聴いただけないという形で開催をいたしました。やはり多くの方に聞いていただくオープンの場で開催をするということについては、今回の経験を踏まえて、改めて、今後に向けて、そういった形が取れるような方法というのを考えていきたいというふうに思っています。与件整理が行われた後については、日本テレビが基本計画、基本設計という形で検討してまいります。シンポジウム、今回、区のほうで開催をしておりますが、場

合によって、日テレが主催するこうした取組もあるかと思うので、今回、区のほうでオープンな開催ということについては、こちらからも申し入れしてまいりたいというふうに思っています。

2点目の幅広いご意見、年代を含めて、多様な方からのご意見を頂くという必要性に関しては、今回、シンポジウムで、広報手段として、新たにポータルサイトを取り入れましたが、ポータルサイト経由でお申し込みいただいた方も一定数いたということも含めて、やはり、なかなかこちらがこういう取組をしていること自体が、声が届いていない可能性もあるので、今回のポータルサイトの事例を含めて、どうすれば、いろんな方に、今、区がやっている取組について、お知らせできるかという観点は意識してまいりたいと思っています。

○春山副委員長 ありがとうございます。

予算総括のところでも何度か質疑をさせていただいてきていますけれども、政策経営部、デジタル政策課とも連携したり、子ども部の新しくできるアプリみたいなものもあるので、ぜひ、そういったものも活用しながら、多くの方の意見を聞けるような仕組みをつくっていただけたらと思います。

○榊原麴町地域まちづくり担当課長 はい。これまでの手法に捉われることなく、デジタルについても、活用方法は考えてまいりたいというふうに思っています。

○林委員長 どうでしょう。一旦、まず、公開性というところで、引き取って、私のほうで、お一人でも反対したらというのは、先に公開性を言っていないと、そうになってしまうんですね。それ、公開性がないのに、与件整理に、前も言った必要十分条件を果たしているのかということ、かなり厳しくなってくると思うんですよ。みんなの前で意見を言って、それが採用されるかどうかのって、内部のうちはいいですけど、与件整理というところになってきているんで、ここはどうなんだろうな、皆さん、何か、いや、やっぱり非公開のほうがいいんだと、効率的なんだというのは、部分もあるんですけど、ここをこの期に及んで与件整理の段階になってくると、ある程度、別に区議会議員だけ行けばいいというわけではなくて、ほかの方たちも見れる場でやっていかないと、与件整理の正当性が出ないのかなというものはあるんですけど、何か、それについて異議があれば。

はやお委員。

○はやお委員 そのところに関連する、おっしゃるとおり、附帯決議のほうのステップ論というところがあって、与件整理をしますよということ。決してシンポジウムがいけないということではないんですね。こういうときの整理というのは、会議体の関連性とか、有機性って、どういうふうに関連していくのかということなんです。というのは、いろいろと会議体があったじゃないですか、沿道協議会だとか、日テレ沿道まちづくり協議会、番町まちづくり、町並みを守る会のとか、こういうことがどういう関係性があって、これとの位置づけが今までどうであったのか、こういうことについては関係なくて、新たにスタートするということであるならば、何を議論しているのかが分からない。与件整理をするということからしたときに、こういうところが整理されないと、シンポジウムのこの会議が、みんなの意見がどういうところに整理されていくのかというのが見えないんだよ、会議体が。だから、議論がもうばらばらになっちゃうんだよ。

あくまでも、与件整理というのであれば、そのところだろうけれども、でも、既にい

ろいろな会議体ができちゃっているわけだ。それをどういうふうに関連づけてやっていくのというのが分からない。お答えいただきたい。

○榊原麴町地域まちづくり担当課長 はい。シンポジウム自体は、この日本テレビの計画の今後の与件整理の中に生かしていくという観点が一つと、次年度以降、区が実施をする番町全体の検討についても生かしていきたいという思いはございます。一方で、既存の区が設置をしている会議体、これについては、区が主体となって開催をしているのは、日本テレビ通り沿道のまちづくり協議会、これ、一つかなというふうに思っておりますが、このまち協については、従来、この沿道全体のまちづくりの基本構想を考えていこうということをもともと契機として始まったというふうに認識をしております。その過程の中で、二番町の計画が持ち上がってきて、この二番町について、まずは、一旦、計画を固めた上で、それを踏まえた上で、沿道全体の構想を考えていこうというのが、このまち協の中で整理をされている現在の内容なのかなというふうに受け止めておりますので、今年度については開催が行われていないんですけども、次年度以降、このまち協についても、現状の二番町の方向性というのは、供用も含めて、行ってまいりたいというふうに思っています。

○はやお委員 つまり、結局は、日テレの基本構想、申し訳ないけど、それをつくろうと思ったけど、つくれなかったわけだよ。で、D地区だけ勝手にやっちゃったわけ。あ、勝手にって、また言われるのかも。独自でやってしまったというところがある。だけど、そうはいいながらも、そこの会議体は、一生懸命みんなで話し合って、そういうふうに整理してきたわけですよ。だから、どうやってリターンしていくのかということところが大切なもの。みんな聞きっ放しで終わりになっちゃうんだよ。それで、与件整理というのは何が一番大切かといったときに、これ、絶対外さないでねと言ったのは、交通量の問題と、そして、地下鉄のところの、ここをどういうふうに、これ、クリアできるの、どういう数字になっているのって、この2点は絶対外しちゃいけない論点なわけよ。でも、全然話されていないわけ。というところが問題なんだと言っているわけ。

それで、僕は、さらに、もう今さらになったら、都市計画審議会でも都市計画が決定されているから、街区広場だっけ、街区公園というんだっけ、あれ、何だっけ、220%の容積を追加する主要な要因なわけだよ。議論はできないよ。けども、どういうふうにあってほしいのかって、そこは話さなかったら何の意味もないんだよ。だから、何を議論しているのか、分からない。で、みんな、よかった、よかった、よかったねって、何でそんなことするって、よかったねじゃなくて、真剣に話さなくちゃいけないところなんだよ、ここは。それは何かといたら、あと6か月の間に基本設計をやるまでに、与件整理をしなくちゃいけないんだよ。そういうスケジュール感、でも、それがいいというんだったらば、何で、あれだったら、今、2.6倍ぐらい建築費用が上がっちゃっているから、ゆっくりやろうじゃないか。ガス抜きだというんじゃ、とんでもねえ話だからね。そのスケジュール感なんだよ。

それで、やっぱり、普通に考えたら、事業計画から考えたら、四番町の100億もかけて土地を買っているんだから、その辺のところを考えますというんなら、もう、ここに来たら、正直に話をしなかったら、子どもだましになっちゃうよ。

○林委員長 子どもだまし。

○はやお委員 あ、いけない。

○林委員長 分からないですよ。昭和と令和……

○はやお委員 いや。じゃあ、ごめん。そういうんだったら、誠実なる区民に対しての説明にならなくなる。だから、何を議論しているのか分からない。お答えいただきたい。

○榊原翹町地域まちづくり担当課長 はい。最終的な与件整理の内容として、こういったことを日本テレビに求めていくかというのは、まだ確定したものはございませんが、ただいまはやお委員ご指摘いただいた、例えば、街区公園、広場をどう使うかということについては、今のよう、いろいろなイベントが行われている形の活用もありますし、一方で、地域の方々にとっては、これ以上のにぎわいを求めない、あそこについては静ひつな空間だというようなことをおっしゃっている方もいらっしゃいます。そういった一つ一つのご意見を考えた上で、日本テレビがあそこの広場をどう造っていくかということ、区から今回の与件整理の中で、例えば、要求をしていくというようなことは、重要なことなのかなというふうに考えています。

あと、四番町の計画に関してなんですが、これに関して、現状で、まだ日本テレビから区が何か情報の提供を受けているかということ、それについては、全く把握していない状況なので、これも踏まえて、何かということが検討できれば、それについては、議会のほうにもご報告してまいりたいと思っておりますが、現状だと、あくまで既に決定をしている二番町の計画について、どう進めていくかということ、区としては考えてまいりたいと思っております。

○林委員長 ちょっと熱くなるのもあるんでしょうけど、一つが、前回の陳情審査の与件整理のところで、この番町次世代シンポジウムに参加された方は、与件整理をするという命題を背負って、区のほうでは、そのために開いたとあって、主催者はそうなんだけど、参加者は与件整理のために発言なり意見を言ったのかというのが大事なところですよ。

○はやお委員 内容からしたら、だって、言っているとは思えないじゃん。

○林委員長 前も、何でもいいから聞いてくれじゃなくて、やっぱり、ある程度……

○はやお委員 そうなんだよ。

○林委員長 修学旅行、どこでも修学旅行に行ってくださいじゃなくて、奈良の、日中、好きなところへ行けとか、自由行動、ある程度、与件の領域設定をかけないと、あれもこれも何でも造ってくれと。お風呂を造ってくれ、スーパーを造ってくれ、スパを造ってくれ、たき火させてくれ、何でもやらせてくれというと、もう聞くだけ聞いて、多分、整理できなくなってしまうんで、その辺を、多分、加藤先生という方は、都市計画審議会、ちょっと遊びに行ってきますとか、1月は練習なんですねみたいな感じの、さらっと冗談半分で言われたのかなという気もしないでもないんですよ。どこまでこうあったんで、この文章が、アイデアとかが出てくるのかなというのが。

○榊原翹町地域まちづくり担当課長 はい。与件整理にどういった内容を反映していくかということなんですが、番町次世代シンポジウムで頂いたご意見というのは、その中の要素の一つかなというふうに考えております。個別ヒアリング、関係機関、教育機関等ということについても、ステップで記載しております。また、それ以前に、都市計画手続を行う上で、様々なご意見、意見書の中で触れていただいているものがありますので、そういったことも全て加味した上で、区としては、与件整理にまとめたいというふうに考えてお

ります。なので、シンポジウムの中で、個々いろいろな施設を入れてほしいというようなご意見も頂いておりますが、こういったご意見があったので、与件整理に反映しなすという考えも一つあるかもしれないんですけども、あまり個別の案件というよりは、思いとして、こういったことを区として反映しなくては行けないかという観点から、与件整理については整理すべきなのかなというふうには現時点では考えております。

○林委員長 そこで、はやお委員の言われた透明性のところで、区のほうでいろんな様々なメールとか頂いたり、学識経験者から意見いただいたり、町場から頂いたりとやっいて、じゃあ、最後、どんと出たときに、何だ、聞かされただけだったのかと言われなような客観性、透明性、妥当性をどういうふうに行っていくのかというのを証明していただければと思うんですが、道筋ですよ、与件整理まで行く。

○榊原翹町地域まちづくり担当課長 まず、1点目の与件整理に関しては、ある程度、集約した形を想定しておりますが、その前段として、これまでどういったご意見があったかということについては、一通り、日本テレビのほうに全て網羅的に見せたいというふうには考えております。また、今後の与件整理をどういうふうに行整理していくかというところなんですけれども、明日の都市計画審議会でのご意見も踏まえた上で、最終的には、都市計画審議会の委員として、今回、シンポジウムにもご参加いただいている先生方にご意見を伺いながら、整理の方向性は考えていきたいと、そのように思っています。

○林委員長 都市計画審議会にそんな権能あるんだ。（「ないよ」と呼ぶ者あり）

どうぞ。（発言する者あり）できればですが、（発言する者あり）いやいや、僕はいいですよ、もう覚悟を持って。

小枝委員、どうぞ。すれないでもらうと。

○小枝委員 今日、今の話と私は関係あると思っているんですけども、4-5という一番最後の資料があるじゃないですか。ここのところに、区議会の現在地みたいなのがあって、そうすると、前向きに話し合える場が終わって、与件整理の目前というような位置づけになっているんですけども、前回も指摘したように、加藤先生が都市計画審議会のときに、この会合は前向きに話し合える場の何か準備のような場だよということをおっしゃったんですね。議事録を、私、調べてくればよかったんですけど、もしお手元にあったら、その表現、どういうふうにおっしゃったかというのを言っていただけますか。

○榊原翹町地域まちづくり担当課長 よろしいでしょうか。

○林委員長 課長。

○榊原翹町地域まちづくり担当課長 はい。ただいまご指摘を頂いたのは、恐らく10月の都市計画審議会のときに、このシンポジウムを開催することについてご報告した際、学識委員としてご意見いただいた際の内容かなというふうには認識しております。

○小枝委員 うん。最後に。

○榊原翹町地域まちづくり担当課長 抜粋して申し上げます。

○小枝委員 うん。ありがとうございます。

○榊原翹町地域まちづくり担当課長 都市計画審議会としては、この附帯決議にあった前向きに話し合う場として、今回の企画がふさわしいかどうかだろうと思うのですけれども、今全体を聞いた感じだと、本格的な前向きに話し合える場の何か準備会のような、そんなイメージという気がしますということで、（発言する者あり）捉え方をおっしゃっていた

のかなというふうに思っています。

○小枝委員 そういふ印象ですよ。

○林委員長 だから、準備会。

○春山副委員長 そのご説明ですよ。

○小枝委員 はい。そうなんですよ。

○林委員長 準備会。

小枝委員。

○小枝委員 そういふことで、準備会的な感じで行きますよと言われて、今日出された4-1の資料のところ、本シンポジウムの意味・意義ということを加藤先生がお話をされているんだけど、恐らく、そのようなお話をされたんだと思うんですよ。ところが一かどうかわからないんだけど、そこは議事録がないので。この4-5の検討ステップに入っちゃうと、もう終わったというか、あとは与件整理ですみたいな感じになってしまっていて、こういうことが、区が意図していないのかもしれないけれども、非常に不安を与えるし、不信を与えるということのきっかけになってしまうと思うんですね。この現在の矢印があるとしたら、恐らく学識経験者の「経」とか、この辺りに矢印がないといけない。つまり、準備が始まりましたという、そういう紙になっていないと、何かやったことにして、やっていないのにやったことにしたというか、十分な意見を、住民の懸念も含めて、出し合ったという状況がつかれないまま与件に入ってしまったというふうな、この資料づくりになっているので、ここは訂正を要するところなのかなというふうに思うんですけど。

○榊原翹町地域まちづくり担当課長 はい。ただいまのご意見であったり、明日の都市計画審議会でご各委員から頂いたご意見を踏まえて、もう与件整理のタイミングだろうということであるのか、もしくは、まだそこには至っていないので、引き続き、何かもう少しステップを挟んだ上で実施すべきではないかとか、その辺りの判断は改めてしてまいりたいというふうに思っています。

ただ、これまで申し上げているとおり、日本テレビの計画がない状況で、なかなか具体的な話についてもできないというところも、こちらとしては思っているんで、どこかのタイミングでは、やはり与件整理を日本テレビのほうに伝えた上で、それを踏まえた計画の案というのを皆様にもお示しできるような段階があったほうが、今後の具体的な前向きな話し合いというのでもできるのかなというふうには考えています。

○林委員長 はやお委員。

○はやお委員 決して否定するつもりはないんだけど、私がもう既に思っているのが、都市計画決定までされて、かなり自由度の部分というのは、この二番町に関してはないと思ってるんです。ほとんど。ないからこそ、どういうところに絞っていくのかって、明確にする必要があると思ってるわけですよ。だって、現実、もう都市計画決定されて、700%の容積はやりますよ。それで、相手があつてたつて、D地区はもう日テレさんだけに渡しているんですから。そうなってくると、どういうところまで歩み寄れるかという話となったら、交通量だとか、そして、また地下鉄のこの内容だとか、地域貢献してくれる内容とか、もう、あと先ほど言った街区広場のこと、公園だとかというところの、そこをまず話す。で、シンポジウムについては、そこで話し合ったことで使えるものがあるよ、そりゃあ。そこはなるでしょう。だけど、そこは話し合える場ということで、翹

町・番町を全体考える中での話し合いとなってくるし、それが決まったことがきちっとフィードバックしていく、今までやった既存の会議体にも返さなくちゃいけないわけだよ。そうしたら、どのようなコーディネートできるというか、できる人の力というのはすごい力が要るわけだよ。これだけ風呂敷を広げちゃっているんだから。

でも、やらなくちゃ絶対いけないことは、二番町のことについては、これはぶれないでやっていかななくちゃいけないといったときの与件整理の整理は、もう入っていかななくちゃいけない、项目的には。という整理をしてくださいよということなんです。そんなばら色の話をしていたって困るんです、本当のことを言って。だから、そういう整理をして、それは何かといったらば、もう現実論として、今言ったら、もう、都市計画は決まっちゃっているんだから。その中で、現実路線をもうはっきり言ってあげて、論点を明確にしていく。こういうところに、もう現実路線に入るべきだということをお願い。

○榊原翹町地域まちづくり担当課長 はい。与件整理ができた上で、日本テレビにそれを伝えることができれば、今回の計画で、どういった使い方をするのか、テナントが入ってくるのかですとか、広場の使い方については、こういうことを前提に設計をしようとか、そういった案が今後出せるものかなというふうに思っています。それこそ、具体的な話ができるタイミングが訪れるのかなというふうに思っていますので、そういったことが固まってくると、はやお委員おっしゃったような交通量のことですとか、地下鉄のこととか、それについても、より具体的なイメージがお示しできるものかなというふうに認識しています。

○林委員長 小枝委員。

○小枝委員 陳情審査なので、これ、何番のについているのかな。二番町計画の附帯決議に基づく適切な「前向きな話し合いの場」をお願いする陳情というのが出ていますよね。そこに、「住民の希望者が誰でも参加できるものではありませんでした」と。「これは「附帯決議」に沿った「前向きな話し合いの場」ではないと考えられます」。「二番町計画についての知識、正しい理解がない参加者に、番町という広い範囲に「あったらいい」、「こうなったらいい」のアイデアを聞くもので、それらの環境負荷を考察することなしに、一部を二番町計画に取り込む趣旨の会でした」というふうになっているんですね。

どういう対応したらいいか、まず、附帯決議があったこととか、そういう前提論として共通認識をちゃんと説明して入ったのかどうか。何でそれが大切かという、この附帯決議の中には、（2）のところで、事業者が地区の要望を受け止めて、上限に対して、ゆとりを持った計画内容とすることということがあって、つまり、上限なんだよって、要望を受け止めながら、懸念点をしっかりと把握して計画をつくるんだよということを盛り込んでいる中に、この話が出てきているわけだから、その前提論をしっかりと説明されて入ったのかということころは、やっぱり気になるころなんですね。それと、これまでの二分状況を緩和するためにやることを考えれば、そうした、今回、陳情が出て、詳細なアンケートの内容も提出されています、住民側が主催したアンケートコメントも出されていますけれども、こうした両側をしっかりと意見を聞きながら答えていくという、それこそ、根気と胆力というか、誠実さというものをもって、懸念点をスルーするのではなく、懸念点と向き合う中で、住民のご懸念はしっかりと受け止めて、この附帯決議に添えていくんだという、そういうことを姿勢として持っていていただいているかどうかということころを伺って

おきたい。

○榊原翹町地域まちづくり担当課長 はい。今回、番町次世代シンポジウム参加者を募集した際に、二番町地区の整備に関連してというようなことは触れた上で募っているといったところであります。シンポジウム当日、お集まりいただいた方々に対して、こういった説明をしたかということですが、前向きな話し合いをするに当たって、当初、細かく経緯をお伝えするというのも考えたんですけども、区からそういったことは事細かにこういった経緯を追って現時点に至っていますということは、ご説明はしておりません。一方で、加藤先生からこういったことがこの地域ではあったということについては、よくご存じでない方も含めて、お話を頂いているといったところでございます。

今回参加いただいた方同士でご説明いただく場というような形で開催をしておりますが、もし、地域の方で計画について何か聞きたいとか、これについて答えてほしいというようなお声がけいただけるようであれば、この間も、何回かそうした機会いただいておりますが、こちらから、区のほうから説明に伺うということはもちろん、こういったあえて募集をかけるという場でなくても、それは行ってまいりたいというふうに思っています。

○桜井委員 関連で。

○林委員長 桜井委員。

○桜井委員 まさに、そのところがとても大切なところだと思うんです。先ほど準備会のようなものというようなお話がありましたけども、附帯決議がついて、それで、今後、どういうふうにしていこうかという中で、シンポジウムということがご提案された。中身を読みましたが、非常に、何というんだろうな、この計画、番町に対する思いというものすごく強く感じました、今回。あ、こんな提案もあるんだと思うものの中には幾つかありました。あ、すごいなど。こういうことが、シンポジウムが行われるということによって、そのシンポジウムには参加をしていないけども、その話を聞いて、説明を受けたいとか、そういうようなことが出てくる。そういうことを重ねることで、一つの形というものができてくるんだろうと思うんです。ですから、このシンポジウムということだけ、これが命になっちゃうわけじゃなくて、やっぱり、これを契機に、この地域の、この日テレの再開の形というものが醸成されてくるという、その中には、区民の方のいろんな要望だとかというものもたくさん出てくるんですよ。それは、一つの形になって、それがこの与件整理をするときの大きな材料になっていくと。それが、今回やった一番大きな意義だと僕は思うんです。いかがですか。

○榊原翹町地域まちづくり担当課長 はい。今、桜井委員おっしゃっていただいたとおり、今回のシンポジウム、非常に番町への思いについて、皆さん、率直に熱い思いを伝えていただいたかなというふうに思っています。こういった記録については、今後、ホームページでも公開してまいりたいというふうに思っていますが、それができれば、いいきっかけとなって、二番町の計画って、どういうものなのかということに関心を抱いていただければ、区としては、計画の概要について、こちらからご説明するという機会は、ぜひ、設けさせていただきたいと思っていますし、それは、先ほど申し上げたとおり、こういった何か募った上でお集まりいただくというよりかは、個別にでもお答えをしたいというふうに思っています。

○林委員長 はやお委員。

○はやお委員 だから、何度もシンポジウムの大切さは分かります。だけど、結局は、今回、二番町のところについては、もう既に日テレということについての大体はもう分かっちゃっているわけですよ。で、何が知りたいかといったら、例えば、本当にビル風の問題はどうなるの、交通量のところになったら、その道との関係どうなるの、と。あと、例えば、バリアフリーになりますというけれども、交通量の確認をして、こういうふうになってバリアフリーができますよと、こういうところを、もうパイが狭いんですよ、二番町の、もうここだけのD地区は。でも、夢というか、番町地区の思いは分かりましたよ。番町・麴町の地区、そうしたら、エリアが広がらない限り、それが実現できないんですよ。といったときに、きちっと整理をしてくれということ。だから、どういうスケジュールリングでやっていくのかということ、現実路線で整理しなくちゃいけないということ、を言っているんです。広げちゃって——いいよ、だから、僕はまだタオル投げたつもりで、四番町の計画もあるだろうと。だから、こういうことって、非常に参考になるんじゃないかという話の意味で言ったんだけど、ご理解いただけないから、でも、早急にやるのは、この二番町、もう間違いなく進みが出てくるんで、ここのところは整理をどういうふうにするのか、スケジュールリングを明確にしてもらいたい。

○榊原麴町地域まちづくり担当課長 はい。ちょっと先ほどから申し上げているとおり、まずは、明日の都市計画審議会でのご意見も踏まえた上で、学識経験者の先生方とどのタイミングで与件整理をすべきかということについては、区としても判断してまいりたいというふうに思っています。日本テレビとしては、その余計整理が出てきた上で、そこで述べられている内容をどう基本計画に反映するかということ、初めてスケジュールが組めるようになってくるので、現時点で、具体的に、来年度、ここまで進められて、その次はここでというような具体的なスケジュールがどうしてもお示しできないんですけれども、（発言する者あり）ずっと先までという形ではなくても、少しずつお示しできることがあれば、スケジュールについてはご説明してまいりたいというふうには考えております。

○はやお委員 何でそんな計画ばかりなんだよ。

○加島まちづくり担当部長 はやお委員の言われるお言葉、ごもっともだというふうに私は思っています。都市計画決定しています。

○はやお委員 しているから。

○加島まちづくり担当部長 なので、この前向きな意見交換というのも、やはり都市計画決定をしたという前提の中で、我々やるべきだと思っているんですけど、まだ都市計画の高さでいえば、60メートルとか、そこら辺にこだわっている方々もいらっしゃるのは事実なので、何かそういった意見が出てしまうと、もう前向きな話ということでもなくなっちゃうのかなと私たちはちょっと思っているんで、そこら辺はいろいろとやり方があるのかなと。ただ、どちらにしても、都市計画決定をしているというところですので、もう計画がどうなるかということをお見せしないと、その与件整理の部分についても、ちょっとなかなかまとまりというのが、じゃあ、出したやつが全てこれでやりますということじゃなくて、（発言する者あり）見てもらって、どうなのかという意見を聞くということも言われているのかなと思いますので、そこら辺は、ちょっと先ほどの4-5ですか、その表はあるんですけど、少し、そこら辺も整理させていただきながら……

○はやお委員 そうだね。

送付5-18、19、21~26、31、41、45~49、52~56、参考送付、送付6-8、18、26、38、39、
送付7-5、6、7 陳情審査部分抜粋：令和 7年 3月25日 環境まちづくり委員会（未定稿）

○加島まちづくり担当部長 はい。シンポジウムに関しては、来年度以降、やっていく番町全体、先ほどはやお委員言われたように、例えば、四番町だとかに関しては、もうまだ何も計画を我々は聞いていないので、聞いていない状況の中で、何かありますかという意見というのを取ることも可能なのかな。そういったことをやるべきなのかなと思っております。

○はやお委員 まあ、フリーでね。

○加島まちづくり担当部長 はい。二番町に関しては、もう都市計画決定をしているので、そういった意味では、少し計画を出していただきながら、そのときに、前向きな話で、じゃあ、こうなるんじゃないのという形をやったらいいのかなというふうに思っていますので、それは、日テレさんがちょっと出してもらわないと、区が出すわけにいかないんで、勝手に絵を描いて出すわけにいかないんで、それは日テレさんにもご協力というか、頂きながらやりたいなというふうに思っていますので、そういったご理解いただけると大変ありがたいなというふうに思います。

○はやお委員 はい。

○小枝委員 はい。時間だと思うので、ちょっと……したいと……ますから……

○林委員長 はい。小枝委員。

○小枝委員 地域を二分しないという大命題の中で、今のご答弁を飲み込んでいこうとすると、どういうふうになるのかなというのがまだ私の中ではうまく整理できないんですけども、はやおさんは分かったのかな。（発言する者あり）

今日出ている、陳情審査ですから、陳情の中で、7-5という陳情の中で、周辺住民中心に100名もの人々が出席し、7割が回答したアンケートというふうなところの8番のところに、日テレ再開発の懸念ということで、生活道路の交通量の増加というのが非常に多いですね。あと、イベントによる騒音、ビル風と、深夜のひとだまりや駅混雑と、こうなっているんだけど、こうした不安、懸念に対して、やっぱり、どういうふうに向き合って応えていくのかということと、そうした懸念を持っている人たちが、前向き、皆さんのやっていたシンポジウムより多くの住民が集まって、こうした懸念を持っているという部分については、ちゃんと事業者のほうにも伝えていかないと、まさしく誠意ですよ、誠実に、60ということを行っているわけではなくて、その中で、これは最高限度で、努力をして環境負荷を減らしていくべく、住民と向き合っていくんだという趣旨ですから、そこを通り越さないでいかないといけないというところは自覚できていますかね。こうした文書も、あっち側とか、こっち側というのではなくて、住民の一つの意見、考え方として、もちろん行政も説明に来たりしているわけですから、そうしたものをちゃんと事業者のほうにも伝えていくことが、まず、区として、公平な、先に行って、さらに二分を固定化しないためのやるべき行政の仕事なんじゃないかというふうに、その点では、今、物すごくそこは急ぐんだなという印象を持ちました。

○加島まちづくり担当部長 小枝委員の今のご質問も、都市計画決定を踏まえた上でのということですよ。

○小枝委員 踏まえた上で。もちろん。

○加島まちづくり担当部長 はい。都市計画決定を踏まえた上で、計画がどうで、それが地域住民の方々はどういう影響するかというのは、先ほど申し上げたように、計画がある

程度出てこない、人流だとか、交通だとか、分からない部分があるので、やはり、そこは計画を出しながら進めていくというのが必要だなというふうに思っております。

○林委員長 どうなんだろう。いろいろご意見あるんでしょう。で、与件整理のところで大事成ってくるのは、日本テレビにお願いしなくちゃいけないことと、千代田区がやるべきことというのは、分類をかけてもらわないと困ると思うんですよ。番町エリアでも、二番町でも。あんまりにも、日本テレビの場所で、そんなに区民ニーズが高いんだったら、ある程度の床面積とかを確保しなくちゃいけなくなってくるでしょうし、賃貸業になるんだったら。ただ、それはできないというんだったら、エリアで区がやらなくちゃいけないことと、日本テレビさんにやってもらいたいということと分類をかけないと、全部、日本テレビさんが来れば解決、番町エリアの、できると思ったら、大間違いですよということだけ。だから、区がやらなくちゃいけないところも、当然、お金もかかっても、人をかけても、やらなくちゃいけないところと、ちょっと分類も、次回以降かけてもらいながら、この陳情を継続しながらやっていくしかないのかなと。

大事なのが、ほんと、いろんな様々な意見で、桜井さんおっしゃったように、なるほどねということもあるけど、これって、ひょっとしたら、区がやらなくちゃいけないことなんじゃないのというのもたくさんあるんで、（発言する者あり）これは、我々区議会のほうも、もうちょっと地域の声も耳を澄まして聞かなくちゃいけないし、行政のほうも耳を澄まして、区がやらなくちゃいけないこと、何でもかんでも事業者にやらせたいという雰囲気もあるんでしょうけども、やっぱり、ある程度は、ちょっと地方公共団体の職責としてやってもらいたいというのは、これは、行政だけじゃなくて、我々議会のほうも、これは区だよと、区がやるべきことだよと。道路整備も、地中化だって、業者に任せるんじゃないって、区のお金でやらなくちゃいけないエリアもあるだろうと思ってきますんで、その整理をしていくというのを宿題で。

ある。1個だけある。岩田委員。

○岩田委員 すみません。せっかくまとめていただいたんですけど、これだけはどうしても言いたいです。

さっき部長が都市計画決定されたんだけど、でも、60メートルという話が出ちゃうと、ちょっと困っちゃうんだよなというような話がありましたけど、でも、もうやるんですから、いいじゃないですか、もう。全部大っぴらにしましょうよ、ちゃんと情報を。シンポジウムも、これをもって、都計審にやりましたよと、これが結果ですなんて言わないでほしいんですよ。この前段階の附帯決議の説明なんかしていないし、全然、説明なんか不十分ですよ。知らされていないんだし。それで、僅か30人弱の参加者、これで、与件整理に入るなんてとんでもないですよ。というだけは言わせてください。

以上です。

○林委員長 都市計画審議会の学識経験者も、これを見れば、理解されると思いますし、我々もいろいろ思いがあるんで、そこは、今後、一緒にやりながら、申し訳ないんですけども、28件の陳情、継続審査の取扱いでよろしいですか。28件ですよ。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○林委員長 はい。じゃあ、継続の取扱いとさせていただきます。